

滋賀県における障害者スポーツ施策について

1. 現状と課題

- 選手層の高齢化に伴い、県大会の参加者が減少傾向にあり、とりわけ若年層の参加者が少ない。
- 障害者がスポーツをする環境として、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮され、運営面や指導面等において工夫されている施設が、県立障害者福祉センターなどに限られている。
- 指導者の多くは、障害者自身か、日頃から障害者に直接関わる人であり、身近な地域で障害者スポーツを指導・支援する体制が十分とは言えない。



- 障害のあるなしにかかわらず、身近な地域で気軽に活動できるためのきっかけや場づくりなどの環境整備が必要。
- 地域で楽しむスポーツから全国レベルの競技スポーツまで、それぞれの場面、障害に配慮した指導・支援ができる指導者を養成・確保していくことが必要。

(参考) 滋賀県スポーツ推進計画

平成25年3月に県教育委員会で策定した「滋賀県スポーツ推進計画」において、障害者のスポーツへの参加機会の拡大を明記。今後、当計画に基づき、

- ア 地域における参加機会づくり
- イ 指導者の養成
- ウ 障害のある人のスポーツの啓発
- エ 学校教育活動との連携

を推進していく。

2. 県の取り組み

(1) 県による障害者スポーツ大会の開催

① 滋賀県障害者スポーツ大会 (県大会)

- ・ 対象競技は、
陸上、水泳、卓球、フライングディスク、アーチェリー、ボウリング、
サッカー、バスケットボール、ソフトボール、バレーボール
の10競技。
- ・ 県大会は、全国障害者スポーツ大会の個人競技予選を兼ねており、成績優秀者の中から次年度の全国大会出場者を選定する。
- ・ 滋賀県と滋賀県障害者スポーツ協会の共催。

【参加者数の推移】

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
陸上	453	430	299	292	238
水泳	56	51	65	58	64
卓球	221	210	180	171	192
フライングディスク	369	307	278	229	195
アーチェリー	82	79	62	54	47
ボウリング	80	86	87	83	71
サッカー	60	51	53	52	82
バスケットボール	28	25	40	38	68
ソフトボール	37	38	45	57	119
バレーボール	—	53	41	27	36
計	1386	1330	1150	1061	1112

※平成24年度、サッカー・バスケットボール・ソフトボールは2回大会を開催

②スペシャルスポーツカーニバル

- ・知的障害者（児）を対象とした県大会（運動会）であり、知的障害者（児）相互の親睦と体力の向上を図るとともに、県民の知的障害者（児）に対する理解と協力を深めることを目的とする。
- ・実施競技は、徒競走、玉入れ、800m走、1500m走、支部対抗リレー、ダンスなどがある。
- ・県内の知的障害者スポーツイベントとして、昭和57年以来30年以上の歴史がある。

【参加者数の推移】

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
661	575	653	613	523

(2) 地域でつながるスポーツの輪推進事業（本年度新規事業）

より多くの障害者が身近な地域でスポーツができる環境づくりを進めるため、体験型スポーツイベントを開催し、障害のある子どもたちがスポーツにふれるきっかけを提供するとともに、若年層の障害者のスポーツ競技人口の増加を目指す。

【事業概要】

①実施主体

県身体障害者福祉協会、障害者スポーツ協会、スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、県などで構成する実行委員会

②事業内容（事業の詳細は、今後実行委員会で検討）

- ・11月上旬に湖北地域と湖南地域の県内2カ所で開催
- ・特別支援学校の児童や生徒、その保護者、指導者などを対象として、車いすバスケットボール、ビームライフル、フライングディスク、風船バレーなどスポーツ体験イベントを実施
- ・また、関連イベントとして、障害者スポーツのトップアスリートによる特別支援学校での講演会を行うと同時に、障害児のスポーツ体験の実施についても検討

事業が目指す姿



障害のある人もない人も一緒にスポーツを楽しむ。
障害者スポーツの裾野が広がる。



障害のある人が身近な地域でスポーツに取り組める環境づくり



地域でつながるスポーツの輪推進事業

地域でスポーツを支える人たちとの協働

障害者スポーツ指導員
障害者スポーツ団体



スポーツ推進委員
総合型地域スポーツクラブ
スポーツ団体等

連携・協働

行政(市町、県)の
障害福祉主管課



行政(市町、県)の
生涯スポーツ主管課



3. 全国障害者スポーツ大会への選手派遣等

(1) 経緯

- ・昭和40年に国体開催地の岐阜県で「第1回全国身体障害者スポーツ大会」が開催。以降、国体開催地で毎年開催。
- ・平成4年に東京都で「第1回全国知的障害者スポーツ大会」が開催。以降、各都道府県持ち回り（国体開催地とは別）で毎年開催。（滋賀県での開催なし）
- ・平成13年に上記2つの大会が統合された「第1回全国障害者スポーツ大会」が宮城県で開催。以降、国体開催地で毎年開催され、平成25年は東京都で第13回大会が開催予定。

(2) 開催場所・日程等

開催地：国民体育大会の開催地の都道府県において開催

※滋賀県では昭和56年に第17回全国身体障害者スポーツ大会を開催

競技施設：原則として国民体育大会の会場を使用

開催日程：毎年10月中旬から下旬に3日間で開催

(3) 参加者・実施競技

参加者数：選手（身体・知的・精神）：約3,500人、役員：約2,000人

競技種目

個人種目：陸上、水泳、卓球、フライングディスク（以上身体・知的）、
アーチェリー（身体）、ボウリング（知的）

団体競技：車椅子バスケットボール、バスケットボール（知的）、グラ

ンドソフトボール（視覚）、ソフトボール（知的）、フットベースボール（知的）、バレーボール（聴覚・知的・精神）、サッカー（知的）

（４）選手団の派遣について

- ・開催地への出発日に滋賀県選手団の結団・壮行式を開催。
- ・全国障害者スポーツ大会中は、大会前日に行われる公式練習から参加。監督・コーチ・総務スタッフが移動日・練習日を含む6日間の期間中、生活面・競技面などから選手をサポート。
- ・帰県時には滋賀県選手団の解団式を開催。
- ・団体競技については、近畿予選会に出場し優勝すると全国大会の出場権が得られるため、優勝したチームを全国大会に派遣する。

【本県の参加者数の推移および成績】

年度	大会	参加者数	メダル数				大会新記録	自己新記録	団体競技出場実績
			金	銀	銅	計			
H25	第13回 東京 (10/12~10/14)	41							ソフトボール
H24	第12回 岐阜	25	15	9	10	34	1	19	
H23	第11回 山口	26	7	8	9	22	1	14	
H22	第10回 千葉	24	11	9	5	25	5	21	
H21	第9回 新潟	25	13	12	9	34	3	18	
H20	第8回 大分	25	24	6	3	33	3	21	
H19	第7回 秋田	26	12	6	9	27	2	29	
H18	第6回 兵庫	32	9	15	19	43	1	24	
H17	第5回 岡山	25	15	12	3	30	4	19	
H16	第4回 埼玉	24	17	9	10	36	4	27	
H15	第3回 静岡	39	15	14	5	34			ソフトボール
H14	第2回 高知	26	20	17	6	43			
H13	第1回 宮城	38	17	7	5	29			サッカー

（５）スポーツ選手の育成

- 全国障害者スポーツ大会の出場を目指す候補選手を育成するため、
- ・記録会（４月）、合同練習会（５月）、合同合宿（６月）を実施。
 - ・上記のほか、競技別に全国障害者スポーツ大会まで月２回程度練習会を開催。
 - ・全国障害者スポーツ大会後も１月・２月・３月に合同練習会を実施。
 - ・練習会には出場選手だけでなく、来年以降に出場が期待される選手も練習に参加してもらうことで、競技の普及向上に努めている。